

平成31年度

事業報告書

自 平成31年 4月 1日

至 令和 2年 3月31日

社会福祉法人 津野町社会福祉協議会

事業実績の概要

地域の課題に合わせた小地域福祉活動が展開できるように担当職員が地域へ出向き、協働でふくしのまちづくり活動の推進をはかってきました。

また、孤立する住民の支援のために、個別支援にかかわる事業を活用し、関係機関と連携し伴走型支援に努めました。

＜ 平成31年度重点的な取り組みに関する評価 ＞

1. コミュニティソーシャルワークによる地域連携福祉活動の推進

地域福祉職員を小学校区ごとの地区担当制として、地域の困りごとに共に向き合い、地域福祉活動に取り組んで地域との関係性を築くことに努めました。また、地域の実践活動を広く広報するために、ふくしのまちづくり研修会を開催しました。

2. 地域サロンの「集う・笑う・助け合う」機能強化

地域サロンが本来の役割である地域のつながりの拠点であるように、世話人との連携を重視し、世話人支援と楽しい集いの活動が展開できるように意識して取り組みました。

3. 分野横断の総合相談体制づくりと職員のチーム対応力の向上

個別支援業務や介護保険および就労支援業務等の各種の事業担当者が情報共有しながら、必要な支援を行うように職員間の円滑な連携に取り組みました。

4. 法人後見事業の体制づくり

成年後見制度に取り組むため、担当職員の学習、役職員研修会の開催をふまえて、理事会で本会が受任できる体制について検討を行いました。

1. 法人基盤整備・強化

(1) 理事会

意思決定機関として事業経営を行った。法人後見業務体制準備など本会が抱える様々な課題について協議検討した。

6月定時評議員会において、理事8名、監事2名が選任され、理事会の決議により、会長に松岡民雄、副会長に高本康稔が前期に引き続き選定された。

理事会には、職員も参加し、役職員が課題意識の共有を図った。

<理事会開催状況>

開催日 場所	会議の名称 出席者数	議 題 及 び 内 容
令和元年 5月29日 津野町総合保健福祉センター「里楽」	第1回理事会 理事 8名 監事 2名 (事務局 6名)	<p><議案></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度事業報告 ・平成30年度収支決算 ・ボランティア活動・福祉教育推進事業助成金交付対象事業の承認 ・理事・監事候補者の選定 ・評議員会の招集 <p><協議・報告></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の“わ”を知る座談会について ・今後の予定
令和元年 6月21日 津野町総合保健福祉センター「里楽」	第2回理事会 理事 8名 監事 2名 (事務局 2名)	<p><議案></p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長、副会長の選定 ・評議員選任解任委員会委員の選任 <p><協議・報告></p> <ul style="list-style-type: none"> ・津野町社会福祉協議会事業について
令和元年 10月8日 津野町総合保健福祉センター「里楽」	役職員研修会 理事 8名 監事 2名 (事務局 7名)	<p>役職員研修会</p> <p>【成年後見制度と社会福祉協議会】</p> <p>講義1 「成年後見制度とは」 須崎ひまわり基金法律事務所弁護士 三上翔平 氏</p> <p>講義2 「社協と法人後見について」 高知県社会福祉協議会権利擁護センター 主任 小谷美和子 氏</p>

<p>令和元年 10月8日</p> <p>津野町総合保健福祉センター「里楽」</p>	<p>第3回理事会 理事 8名 監事 2名 (事務局 7名)</p>	<p>〈協議・報告〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長職務執行状況報告 ・法人指導監査、どんぐり農園実地指導の状況報告 ・歳末助け合い運動（産業祭・健康ふくし展）について ・法人後見業務への取り組みについて
<p>令和元年 12月16日</p> <p>津野町老人福祉センター</p>	<p>第4回理事会 理事 8名 監事 2名 (事務局 7名)</p>	<p>〈議案〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度第1次補正予算 ・評議員会の招集 <p>〈協議・報告〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県法人指導監査、障害福祉サービス実地指導結果について ・就労継続支援事業所の今後 ・法人後見業務の推進
<p>令和2年 3月17日</p> <p>津野町総合保健福祉センター「里楽」</p>	<p>第5回理事会 理事 7名 監事 2名 (事務局 5名)</p>	<p>〈議案〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度第2次補正予算 ・令和2年度事業計画 ・令和2年度収支予算 ・どんぐり農園運営規程の一部改正 ・第三者委員の選任 ・評議員会の招集 <p>〈協議・報告〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長職務執行状況報告

また、会長、副会長は、5月15日高幡広域社協連絡協議会総会および8月8日ブロック別市町村社協会会長等意見交換会に出席し、高幡圏域内の市町社協、高知県社協との課題共有、情報交換を行った。

（２）監査

監事は、平成30年度事業及び会計監査を実施し、指摘事項を会長及び事務局へ告げた。同時に監査報告書を作成した上で、理事会で報告した。また、理事の業務執行状況を監査する立場から、全ての理事会に出席し意見を述べた。

定例監査

- 実施日：令和元年5月22日（水）
- 場所：津野町総合保健福祉センター「里楽」
- 監査項目：平成30年度事業実績報告書
平成30年度計算書類及び関係書類

中間監査

- 実施日：令和元年11月7日（木）
- 場所：津野町総合保健福祉センター「里楽」
- 監査項目：平成31年度前期事業及び会計処理

また、監事は、2月7日、市町村社協監事研修会に出席し、社協のコンプライアンス対策および会計監査の進め方の講義を受けた。

9月27日には、高知県による社会福祉法人指導監査および指定障害福祉サービス事業者（どんぐり農園グリュエネ）実地指導を受けた。

（3）評議員会

法人運営の基本ルール、体制の決定と事後的な監督を行う議決機関として、定められた事項について決議を行った。評議員は、12名で本年度中の変更はなかった。

＜評議員会開催状況＞

開催日 場所	会議の名称 出席者数	議 題 及 び 内 容
令和元年 6月21日 津野町総合保健福祉センター「里楽」	第1回（定時） 評議員会 評議員 11名 (会長、事務局 2名)	＜議案＞ ・平成30年度事業報告 ・平成30年度収支決算 ・理事、監事の選任 ＜協議・報告＞ ・令和元年度第1回理事会（5月29日開催）報告

令和元年 12月24日 津野町老人福祉センター	第2回評議員会 評議員 10名 (会長、事務局2名)	〈議案〉 ・平成31年度第1次補正予算 〈協議・報告〉 ・令和元年度前期事業執行状況報告 ・令和元年度第3回理事会報告 ・令和元年度第4回理事会報告
令和元年 3月27日 津野町総合保健福祉センター「里楽」	第3回評議員会 評議員 10名 (会長、事務局3名)	〈議案〉 ・平成31年度第2次補正予算 ・令和2年度事業計画 ・令和2年度収支予算 〈協議・報告〉 ・令和元年度第5回理事会(3月17日開催)報告

(4) 評議員選任・解任委員会

選任及び解任について開催の必要性がなく、未開催であった。

(5) 住民会員制度

7月に、町内全域の成人に会員加入のお願いをし、各地区長の協力により、下記のとおりの実績があった。また、特別会員の加入についても格段のご理解をいただき下記のような実績を上げることができた。

会費は、地域福祉活動推進のため活用した。加入状況、使途については、社協日より「あくしゅ」に掲載し、また、地区長会で報告した。

■個人会員

	会員数(人)	加入戸数(戸)	口数(口)	金額(円)
東地区	1,171	1,013	1,198	599,000
西地区	592	518	610	305,400
合 計	1,763	1,531	1,808	904,400
※前年度	1,642	1,424	1,721	860,700

■特別会員

	団体数	加入口数	金額(円)
町 内	4 3	4 5	225,000
※前年度	3 5	3 7	185,000

(6) 事務所と職員体制

事務局次長を配置した他、本所、西支所及び就労継続支援事業所にそれぞれ職員を下記のとおり配置した。地域福祉の地域担当制及び複数事務事業の兼務による職員体制とした。

<令和2年3月現在の職員体制>

本所	事務局長 ※就労継続支援事業所 管理者、支所長兼務 1 名	西支所	支所長（事務局長兼務）（1 名） 主任 1 名 ※自立相談支援員兼務 事務職員（臨時） 2 名 配食員（非常勤） 2 名 訪問介護員（非常勤） 1 名 サロン送迎運転（非常勤） 1 名	
	事務局次長 ※訪問介護事業所管理者、日常生活自立支援 事業専門員兼務 1 名 主任 ※地域活動支援センター施設長兼務 1 名 主幹 ※訪問介護事業所サービス提供責任者 1 名 主事 1 名 事務職員（臨時） 1 名 訪問介護員（臨時） 1 名 あったかふれあいセンター職員（臨時） 3 名 地域活動支援センター支援員（臨時） 1 名 配食員（非常勤） 2 名 訪問介護員（非常勤） 2 名		就労継続 支援事業 所	サービス管理責任者 1 名 目標工賃達成指導員（臨時） 1 名 [どんぐり農園] 職業指導員（臨時） 1 名 職業指導員（非常勤） 1 名 生活支援員（非常勤） 2 名 送迎運転（非常勤） 1 名 [作業所里楽] 職業指導員（臨時） 1 名 生活支援員（臨時） 1 名 職業指導員（非常勤） 1 名 送迎運転（非常勤） 1 名
業務項目	正職員	臨時職員		
法人運営 地域福祉事業	5 名	7 名	5 名	1 7 名
介護事業	1 名	1 名	3 名	5 名
就労継続支援事業	1 名	4 名	6 名	1 1 名
計	7 名	1 2 名	1 4 名	3 3 名

2. 啓発・福祉教育事業

(1) 社協だより「あくしゅ」、社協リーフレットの発行

「あくしゅ」については、本会の組織や事業報告、経営状況を情報公開し、また、福祉情報、地域福祉活動を地域住民に広く知ってもらうために奇数月1日を発行日として、年間6回発行した。A4サイズ、全6ページカラー印刷の体裁で作成した。

各地区長に協力をいただき、全戸配布を行い、町内の金融機関や公共施設、交流施設等関係機関へも配置をお願いした。ホームページへの掲載も行った。

「社協リーフレット“こんにちは社会福祉協議会です”」については、社協会員募集時（7月）に、社協の事業概要などを紹介したパンフレットを作成し、全戸に配布した。裏面には、「お守りカード」を刷り込んだ。

(2) ふくしでまちづくり研修会の開催

地域の実践発表と住民主体の活動の意識化、価値化を図るため、住民対象の福祉研修会を開催した。地域主体の活動報告は、アンケート結果からも活動の苦勞や喜びが伝わり、今後の地域活動の広がりにも効果があったことがうかがえた。また、中学生の津野町に関する学習成果の発表についても、次世代を担う中学生への期待がもてたようであった。

高知県立大学田中教授により、研修のまとめと次へのステップとなる材料やヒントについて講演していただいた。

- | | |
|-----------|--|
| ➤ 実施日 | 令和2年2月22日(土) |
| ➤ 場 所 | 津野町総合保健福祉センター「里楽」 |
| ➤ 参加者(住民) | 142人 |
| ➤ 内 容 | <div>① 活動報告</div> <div>・東津野中学校2年生 ・集落活動センターしらいし</div> <div>・貝ノ川サロン「棚田の集い」 ・芳生野ふるさと会</div> <div>② 講演</div> <div>「地域を元気に！誰もが生き生きと暮らすためには」</div> <div>高知県立大学 社会福祉学部 田中きよむ教授</div> |



(3) 子ども福祉・ボランティア活動

■ボランティア活動・福祉教育推進事業助成金交付事業

津野町内の小、中学校が行う地域でのボランティア活動や福祉教育・伝承活動の取り組み支援することを目的として、本会の会員会費を活用して助成を行った。

<平成31年度助成先>

学校名	助成事業内容
中央小学校	サロン訪問、お茶づくり、伝統的食文化の学習、米作り
精華小学校	校内美化・栽培活動、いきいき学習発表会、敬老年賀状、高齢者との交流
葉山小学校	地域との連携交流事業（ふれあい感謝祭、学習発表会）
東津野中学校	神楽の伝承
葉山中学校	保育園訪問ボランティア活動、24 時間TV募金活動、全校ボランティア活動、高齢者への年賀状、勤労体験、人権教育講演会

■福祉教育・ボランティア学習の推進

津野町内の小・中学校のコミュニティスクール、地域学校協働本部の取り組みに参加し、学校及び関係者と連携して福祉活動に取り組んだ。

学校関係会議・教職員との打ち合わせの実施及び参加状況は、町内小学校が16回、中学校が6回だった。

3. 住民主体の福祉コミュニティづくり

(1) 福祉委員活動

<地域の“わ”を知る座談会（福祉委員・民生児童委員連絡会）参加状況>

開催日	対象地区	参加者数（延人数）							実人数 ※職員除く
		民生 委員	福祉 委員	地区長	サロン 世話人	その他	社協 役員・ 評議員	社協 職員	
4月15日	上井田、久保川	1	4	1	3	3		2	10
	桑ヶ市、西倉川、 岩土	1	2	1	2			2	4
4月16日	姫野々	2	6	4	6		1	4	12
	新田、保井川 保井川団地	1	2	0	1			2	4
4月17日	新土居	1	5	2	5		1	2	9
	郷	2	5	2	1	3		3	12
4月18日	烏出川、力石	1	3	2	1		1	2	8
4月19日	赤木、桑ノ川、 梶足	1	4	1	4			2	6
	北川、大古味	2	3	2	2		1	3	8
4月23日	杉ノ川	1	5	2	0		2	3	9
4月25日	三間川、樺ノ川 西谷	1	3	1	3		1	1	5
4月26日	高野	1	8	1	2	1		3	11
5月7日	白石	2	4	4	0	3		3	13
5月8日	宮谷、木桑	1	2	2	2			2	6
	東黒川、西黒川 白河瀬	1	2	3	0		1	3	7
5月9日	床鍋	1	6	1	3	3		2	14
5月10日	下野、芳生野奈路	1	1	2	2	2		2	8
5月13日	永野、貝ノ川 川の内	1	7	5	1			3	11
5月15日	船野、東倉川、 舞ノ川、栗ノ木	1	3	3	1			2	7
	桂	1	3	1	2			2	6
5月16日	大野、藤ノ川、 鍵野々	1	5	3	1			2	9
5月17日	船戸町、船戸奈路、 西の川、中村	2	2	3	1	1	1	2	7
合計（22会場）		27	85	46	43	16	9	52	186

東地区 95 名、西地区 69 名の福祉委員が、各地域で活動された。

福祉委員活動の周知と民生児童委員との連携を強めるため、また、見守り支え合える地域づくりを目指して、4 月 15 日から 5 月 17 日の間、町内 22 会場で地域の“わ”を知る座談会（福祉委員・民生児童委員連絡会）を開催した。

地域福祉活動計画と地域で先駆的に取り組む地域福祉活動の紹介、地域サロンなどの集いの役割の確認を行った。



▲地域の“わ”を知る座談会

（２）地域サロン

各地区の地域性やニーズに合わせたサロン活動が地域の創意工夫で展開された。本会では、サロンの運営上の相談を受け支援等を行った。2 月、3 月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動自粛を依頼した。

＜地域サロン 実施状況＞

- 報告サロン数： 29 か所（東地区 18 か所 西地区 11 か所）
- 開催回数： 延 601 回（東地区 421 回 西地区 180 回）
- 参加人数： 延 5,076 人（東地区 3,299 人 西地区 1,777 人）

■サロン世話人連絡会・お茶会

世話人連絡会及び世話人お茶会は、昼の部と夜の部を開催し、参加しやすい環境設定に努めた。各サロンで課題となっている内容について意見交換を行った。

＜サロン世話人連絡会＞

- 開催日：①令和元年 5 月 27 日（月）
②令和元年 5 月 28 日（火）
- 参加者：① 7 サロン 11 人
② 23 サロン 38 人

＜ちょこっとお茶会＞

- 開催日：令和元年 10 月 10 日（木）
- 参加者：昼の部 3 サロン 5 人
夜の部 12 サロン 22 人

■輪投げ大会

サロン対抗輪投げ大会は、24時間テレビチャリティイベントに併せて開催し、多くの住民でにぎわった。

- 実施日：令和元年8月24日（土）
- 参加者：13サロン 18チーム 72人

■地域サロン大交流会

地域サロン同士の交流と仲間づくりを目指して、サロン対抗輪投げ大会及び交流食事会、情報交換を兼ねた交流会を実施した。津野町内の多くのサロン関係者が集い、楽しく交流してもらうことができた。

- 実施日：令和2年1月18日（土）
- 参加者：22サロン 117人



■サロン決算大相談会

地域サロンに対する町助成金の活用方法について問い合わせが多いことから、助成金使途報告書作成時期に合わせ、個別相談会を実施し、各サロンの書類作成を支援した。

- 実施日と対応サロン数
 - ・平成31年4月10日（水） 9サロン
 - ・平成31年4月11日（木） 5サロン
 - ・平成31年4月12日（金） 4サロン

（3）福祉パトロール

町内の70歳以上の一人暮らし高齢者や75歳以上の高齢夫婦世帯等に対して、民生児童委員、行政、消防、警察、ボランティアグループなど福祉関係団体の協力により安心・安全見守り台帳の聞き取り訪問調査を行った。

郷、船戸、白石地区では、地区住民が中心となってパトロール活動を行った。本会では、実施に向けて地区との話し合いや調整などを行った。

新たに対象者となった方には個人情報使用同意書に署名してもらった。

＜福祉パトロール実施状況＞

項 目	東地区	白石地区	郷地区	西地区	船戸地区
実 施 日	6月18日(火)	6月20日(木)	6月24日(月)	6月25日(火)	6月26日(水)
訪問世帯・人数	183世帯 242人	31世帯 40人	29世帯 31人	82世帯 101人	36世帯 40人
協力者数	68人	25人	29人	51人	34人



(4) 安心・安全見守り台帳とお守りカード

高齢者等を対象にした福祉パトロールで、緊急連絡先やかかりつけ医、就寝場所などを聞き取り、安心・安全見守り台帳を作成した。その台帳の情報から「お守りカード」を作成し、374世帯、602人の在宅一人暮らし高齢者等へ配置した。

(5) あったかふれあいセンター事業

町より受託し、専任スタッフ3名が5か所のサテライトを曜日ごとに巡回する体制で事業を実施。送迎等の現場スタッフが足りないときには、地域福祉担当職員等が業務を補完した。

サテライトでは毎回介護予防体操を行い、利用者の身体機能の維持を図るとともに健康意識の向上に努めた。また、必要に応じて、本会の地域福祉・在宅介護担当職員や地域包括支援センターの職員等と連携しながら利用者の情報共有や訪問活動を行った。さらに住民主体のサテライトとなることを目指して、新たな地域人財との繋がりづくりにも努めた。

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために3月2日から3月24日の期間は集いを自粛した。

[集い]

サテライト 名称	開設 日数	利用者数（延人数）					前年度 利用者数
		高齢者	障がい者	子ども	その他	合 計	
いちょうの 郷	38	670	0	0	3	673	704
鶴松の風	44	1,340	0	44	43	1,427	1,403
新田 くつろぎ家	46	840	13	0	10	863	1,071
いらずの さと	45	734	0	0	8	742	753
せんだん	46	934	5	65	21	1,025	1,074
合 計	219	4,518	18	109	85	4,730	5,005

[機能別利用者数（延人数）]

集い（再掲）	送迎	相談	訪問	つなぎ	生活支援
4,730	2,589	51	278	41	439

[会議の開催回数]

定例会	運営検討会	ケース検討会	スタッフ会	運営協議会
4	9	5	17	3



（６）地域福祉活動と地域支援

郷地区、芳生野地区、船戸地区、白石地区、床鍋地区について、地域住民主体の活動推進のため、地区担当職員が地域に入り集落活動センターや地区と連携し、事業推進を図った。



▲郷地区で助け合いのしくみ検討中

4. 助け合い・支え合えるつながりづくり

(1) ボランティア活動・ボランティアセンター

■ボランティア登録

ボランティア活動保険や行事用保険の加入手続き及び活動を希望する人、団体の登録を行った。

➤ ボランティア登録者の現状

個人ボランティア登録80名（東28名、西52名）

➤ ボランティア活動保険加入手続き

加入者 9グループ150人

ボランティア行事用保険加入手続き件数 37件

■ボランティア連絡協議会事務局

町内各種のボランティア関連団体の連絡調整組織として、事務局運営を行った。各加盟団体へのお知らせとして、情報紙「ぼらんていあ」を1回発行した。加入団体は、18団体となった。

■24時間テレビ「愛は地球を救う」チャリティキャンペーン

ボランティア連絡協議会を中心として、賛同団体による実行委員会を組織し、津野町全体の取り組みを行った。本会は事務局業務を担当し、テレビ局との調整、輪投げ大会等の内容企画実施、募金の集計送金等を行った。

➤ 実施日：令和元年8月24日（土）

➤ 会 場：〈東会場〉葉山の蔵

〈西会場〉津野町福祉交流センター

➤ 賛同団体：34団体

➤ 募金送金額 483,367 円

（２）住民参加型助け合い制度「ほっとサービス」

一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯、障がいのある方等の暮らしの支援として住民参加によるサービスを実施した。

＜ほっとサービス 実施状況＞

受付件数 7 件 利用実績 6 件（東 2 件、西 4 件）

協力会員：延 11 人 稼働時間：延 15.5 時間

- 庭木の剪定・・・・・・・・・・ 1 件
- 庭の草引き・・・・・・・・・・ 2 件
- 墓掃除・・・・・・・・・・ 1 件
- ゴミの分別、処理・・・・・・・・ 1 件
- 部屋の掃除・・・・・・・・・・ 1 件

（３）ふれあい配食サービス

一人暮らし高齢者等とのふれあいを目的に昼食を宅配した。東地区では月 4 回、西地区では、月 3 回実施したが、台風接近により 1 回中止をした。ボランティア、民生児童委員の全面的な協力を得て、一人暮らし高齢者、高齢者のみ世帯等で希望される方に手作りのお弁当をお届けした。



また、住民の方から多くの食材料の提供をいただいた。ボランティア、民生児童委員の配達時には、話し相手や安否確認などもでき心の交流につながった。

配達ボランティアの研修と交流を目的として 2 月 19 日、ボランティア 26 名の参加を得て、香川県琴平町で福祉と農業、商業、学校の連携による商品開発について学んだ。

＜ふれあい配食 実施状況＞

	配食数（食）	利用者数（人） （4 月時点）	調理ボランティア （延人数）	配達ボランティア （延人数）
東地区	1,863	49	288	383
西地区	1,855	60	285	295
計	3,718	109	573	678
※前年度	3,982	113	573	628

(4) 災害ボランティアセンター事業

災害ボランティアセンターの実際の運営における課題などを学ぶため、9月2日、3日の日程で、高幡広域社協連絡協議会主催の視察研修に役職員6名が参加した。西日本豪雨災害の被災地であり、高知県内の社協が災害ボランティアセンター運営支援を行った愛媛県宇和島市で活動の課題や復興の様子を学ぶことができた。

災害ボランティアセンター運営会議は、平成31年4月18日(木)に実施し、22名の出席があった。

3. 生活課題に向き合う総合相談

(1) 生活困窮者自立相談支援事業

生活困窮者に対し、就労支援及びその他の自立に関する問題について相談・支援を行った。相談支援員及び主任相談支援員は、本会職員(2名)が兼務し、取り組んだ。

また、町校長会や民生児童委員協議会定例会、町関係部署との協議及び協力依頼を行った。

民生児童委員からの情報提供を受けての同行訪問やケースにより高知県社協の家計相談支援事業、弁護士等の専門機関と連携し、相談者の生活課題の把握・整理から課題解決に向けて状況に応じた包括的・伴走型支援に努めた。

<自立相談支援 実施状況>

➤ 相談受付件数	27 件
➤ 電話相談	96 回
➤ 訪問・同行支援	112 回
➤ 面談	62 回
➤ 支援調整会議	9 回
➤ 関係機関とのケース会	8 回
➤ 関係機関との協議、代行支援等	66 回

■若者サポート会議

引きこもりの若者無業者の支援のために、若者サポートステーション、教育委員会、町健康福祉課と協力体制をとり、定期的な関係者会議を開催した。

また、家族支援を視野に入れ、引きこもり若者の親の茶話会を開催した。

- | | |
|----------|----------------|
| ➤ 会議回数 | 4 回 |
| ➤ 家族の茶話会 | 1 回（当事者参加 1 名） |

■フードドライブ活動

県下で展開される食料支援のための活動に参加し、住民への呼びかけを「あくしゅ」や本所、支所の窓口で行った。多くの食料品のご寄付をいただき、また、必要な方への食料提供活動も行った。

- | | |
|--------------------|-----|
| ➤ フードドライブを活用した食料支援 | 5 回 |
|--------------------|-----|

（２）福祉サービス利用援助事業

日常生活を送る上で、自分ひとりでは判断することが難しい高齢者や障がい者が安心して生活が送れるように、福祉サービス利用援助と日常的な金銭管理、暮らしのアドバイスを行った。

支援にあたっては、利用者の自己決定を尊重しながら、専門員と生活支援員が連携し、事業を実施することにより利用者の在宅生活を支援した。

成年後見制度への移行が必要な場合の対応として、法人後見受任に向けて、積極的に研修会や情報交換会に出席した。

- | | |
|-------------------|------|
| ➤ 平成 31 年度末現在契約件数 | 5 件 |
| ➤ 生活支援員による支援回数 | 49 回 |
| ➤ 専門員による直接支援回数 | 85 回 |

(3) 生活福祉資金貸付相談制度

高知県社会福祉協議会との契約によって借受世帯に対する償還支援を実施した。特に、生活困窮者自立相談支援事業とも連携し、貸し付けに関する相談にも応じた。

➤ 平成31年度末現在貸付件数	15件
内 当年度新規貸付	4件
・緊急小口資金	1件
・教育支援資金	2件（支度費）
・福祉費	1件
➤ 借り受けに関する相談件数	5件
➤ 償還指導	3件

6. 在宅介護・在宅支援事業

(1) 介護保険サービス「訪問介護事業」

居宅サービス計画に沿った訪問介護計画の作成を行い、利用者とのコミュニケーションを大切にして計画に基づいたサービスの提供を行った。

ケース検討会を定期的に行い、情報を共有することによって統一したサービスを提供することができた。ヘルパーの資質向上のために、ノーリフティングケア、自立支援研修会に参加した。

<利用実績>

月	利用者数（実人員）		稼働ヘルパー数 （実人員）
	3 1 年度	※前年度	
4 月	1 5	1 9	4
5 月	1 5	1 7	4
6 月	1 3	1 6	4
7 月	1 4	1 6	4
8 月	1 3	1 6	4
9 月	1 1	1 7	4
1 0 月	1 1	1 7	4
1 1 月	1 1	1 6	4
1 2 月	1 2	1 6	4
1 月	1 2	1 5	4
2 月	1 0	1 5	4
3 月	1 0	1 5	4
合 計	延 1 4 7	延 1 9 5	延 4 8

<サービス内容別提供数>

サービス内容	提供回数(回)		延時間（時間）	
	3 1 年度	※前年度	3 1 年度	※前年度
身体介護	671	612	402	358
生活援助	810	814	744	748
身体＋生活	137	183	137	204
介護予防・総合	178	333	178	333
合 計	1,796	1,942	1,461	1,643

（２）介護保険サービス「訪問入浴介護事業」

居宅介護事業所と情報共有することによって安心、安全に入浴サービスを提供することができた。利用者は減少し、１２月から利用がなかった。

＜訪問介護利用実績＞

- 利用者数：１人
- サービス提供回数：１７回（前年度４８回）

（３）福祉用具貸与・介護用品あっせん事業

通院時や外出時などの場合に貸し出す車いすの短期利用および外泊時のみの電動ベッドについては無料で貸与した。ベッドの搬出入は、本会事務局で行った。

介護用品の斡旋については、本会事務局で相談を受けながら対応した。貸出用福祉用具の充実のため、車いす２台を購入した。

＜利用実績＞

所有用具	貸し出し利用人数		
	長期	短期	※前年度
電動ベッド	１５	１	長期 １５ 短期 １
車椅子	８	３９	長期 ８ 短期 ４２

（４）生活支援型配食サービス

町からの受託事業として実施。ケア調整会議で必要と認められた方へ昼食を配達した。全町で毎日型の配達を実施した。普通食は、町内飲食業者、特別食は、特別養護老人ホームに調理を委託し、配達は大協職員が対応した。安否確認や必要がある場合には、関係機関への連絡等、在宅生活の継続を支援した。

＜利用実績＞

区 分	利用者数（人）	提供食数
特別食	３	６７３
普通食	２０	２，９４５
計	２３	３，６１８（前年度 2,591）

7. 障がい者地域生活支援

(1) 地域活動支援センター

町内の障がいのある住民が交流活動やレクレーションを通じて、地域との交流や仲間づくりを行うために、毎月「わきあいあい広場」を実施し、また、集団生活に馴染みにくかったり、少数でのサポートが必要な障がい者が生活の訓練などを行う「わきあいあい広場ミニ」を実施した。

また、支援ボランティアとミーティングを行い、障害の理解や個別支援について話し合った。

ご本人や家族の抱える困りごとに対応するため支援員が在宅訪問を行い、生活状況把握や悩み事を聞かせていただき、関係機関と共に情報共有した。

学校の長期休暇期間中には、障がい児童、生徒対象に「障害児長期休暇支援事業」を実施し、関係者及び支援ボランティアの協力を得て、子どもたちの様々な体験や遊びの場を提供し、楽しい休暇を過ごしてもらうことができた。保護者と子どもたちの様子などの情報交換のため親子遠足を行い、保護者同士の交流の場となった。

■わきあいあい広場

町内の障がい者の交流の場として毎月実施した。3月は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を見送った。

参加を通して、社会生活の幅が広がり、日常生活の中でも声掛けがきる仲間となってきた。

実施日	内 容	参加者数（人）	
		障がい者	ボランティア 社協職員
4月23日	調理・宝さがし	6	3
5月15日	調理・天狗高原遠足	12	8
6月22日	調理・室内ゲーム	13	5
7月28日	調理（流しソーメン）・カラオケ・ゲーム	10	10
8月29日	お出かけ（西島園芸団地、買い物）	10	5
9月20日	調理・折り紙・あったかふれあいセンター利用者との交流（工作）	6	4
10月29日	お出かけ（高知城歴史博物館・買い物）	9	6
11月21日	調理・ウォーキング	5	3
12月6日	調理・ケーキ飾りつけ・クリスマス会	12	5
1月15日	調理・室内ゲーム	4	7
2月18日	調理・避難訓練・防災講習	9	6
合 計		96	62
※前年度		118	72

■わきあいあい広場ミニ

日中の居場所を確保し、自分のペースで社会的な体験ができる場として、実施した。集団の中では対応できにくい個性と障害特性への配慮をしつつ生活課題に向き合い、調理や作業など利用者主体の活動となるよう個別支援を行った。3月は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施を見送った。

実施月	内 容	利用者数 (人)
4月(3回)	調理・ゲーム・座談・作業所見学・パソコン教室	4
5月(3回)	調理・工作・読書・パソコン教室	4
6月(2回)	調理・散歩・座談・ゲーム	2
7月(2回)	調理・片岡邸見学・座談・ゲーム	3
8月(2回)	調理・座談・折り紙	3
9月(3回)	調理・座談・パソコン教室	3
10月(2回)	調理・散歩・座談・ゲーム	2
11月(1回)	調理・散歩	1
12月(2回)	調理・手芸・パソコン教室	4
1月(2回)	調理・折り紙・座談	2
2月(2回)	調理・折り紙・座談・買い物	5
計(24回)		33

■生活相談事業

在宅で暮らされている障がいのある方々のうち、町より訪問依頼があった方に支援員が訪問し、生活状況の聞き取りを行った。必要なケースについては、町や保健師に相談し、つないだ。

<訪問実績>

- 訪問者数： 10人
- 訪問回数：延20回

■障害児長期休暇支援事業

保健師等町関係者との協議や関係学校との連絡をとりながら、子どもたちが楽しい休暇を送れるよう支援した。地域住民、支援ボランティアの協力を得て実施し、また、あったかふれあいセンターや中土佐町の子どもたちとの交流を行った。

<長期休暇支援事業実施状況>

実施日	内 容	参加者数（人）		
		児童・生徒	ボランティア	職員 (町・社協)
7月23日	宿題・調理実習話し合い・プール自由遊び	13	6	7
7月24日	宿題・あったかふれあいセンター交流・天狗高原散策	12	6	5
7月26日	宿題・調理・プール	10	2	9
7月29日	宿題・流しそーめん・陶芸教室	12	7	10
7月31日	宿題・調理・工作	12	5	7
8月2日	中土佐町の子どもたちとの交流	10	3	7
8月6日	宿題・レクリエーション・音楽療法	12	2	9
8月8日	宿題・レクリエーション・プール歯科教室	11	0	9
8月9日	スポーツ体験・お出かけ	13	4	6
8月19日	宿題・調理・プール	13	2	9
8月22日	宿題・ピザ焼き体験・新聞バッグ作り	13	5	6
8月27日	宿題・書道教室・レクリエーション	13	3	5
1月7日	レクリエーション・おやつ作り	9	0	4
3月25日	宿題・おやつ作り・レクリエーション	9	2	3
合 計		162	47	96
※前年度		159	96	63



■親子遠足

障がいをもつ子どもたちの保護者同士が悩みや楽しみを共有しつつ、親同士がつながるための親子遠足を実施した。

＜親子遠足実施状況＞

- 実施日：令和元年11月30日（土）
- 場 所：香川県高松イオン内 木下大サーカス
- 参加者：保護者3人、児童4人

（２）障害福祉サービス「居宅介護」

在宅生活、地域生活を送るために、利用者の身体機能や心に合わせたサービス提供に努めた。ヘルパー間の情報共有やケース検討の場をもち、利用者とのコミュニケーションをていねいに行うことにより、利用者に寄り添ったサービスを提供することができた。

サービスの質を高めるために、町相談支援事業所、サービス関係スタッフとのケース会議に出席した。また、ヘルパー自身の資質向上のため、一陽病院、どんぐり農園、地域活動支援センター合同で勉強会を行った。

＜利用実績＞

- 利用者数：7人
- サービス提供時間：411時間（前年度522時間）

（３）移動支援事業

外出のための移動に困難がある障がい児・者の日中の地域での自立生活及び社会参加を促すことを目的とする事業で、町より受託し、介護職員による移動支援を行った。

＜利用実績＞

- 利用者数：3人
- サービス提供日数：23日（前年度8日）
- サービス提供時間：82.5時間（前年度44時間）

8. 就労継続支援（B型）事業所

（1）経営

障害福祉サービス就労継続支援（B型）事業所として、どんぐり農園 グリューネ・作業所里楽を一体的に運営した。両作業所のスタッフ間の連携をはかり、協力をして事業所運営にあたった。利用者の減少から経営的には厳しい状況が続いた。また、施設外就労を次年度から実施するため、中土佐町の就労継続支援B型事業所や須崎市の就労支援センター、県障害福祉課を訪問し、必要な手続きや書類、留意点等を学んだ。

（2）利用者の状況と支援

新規利用者が2名あり、年度末現在で23名の利用者となった。

支援については、個別支援会議及びモニタリング会議等により、個人の能力や心理、体調等状況把握を行いながら個別支援計画を作成した。

また、町自立支援協議会の就労支援部会に積極的に出席し、就労に関する情報共有や町内企業対象のアンケート調査への協力など行った。一般就労のための学習会には、一般就労を目指す利用者と職員が共通意識をもつため一緒に参加した。町相談支援事業所と連絡会を定期的の実施し、ケース会議等へも積極的に参画した。

（3）作業と売上げ

授産事業では、どんぐり農園のハナニラで連作障害により生育に影響があったが、前年度に比べ生産量は増加した。また、花苗については販売及び町内の花壇や公共施設へ出荷した。

作業所里楽では、受託事業の作業が減り、前年度より収入が減少した。

販売活動では、どんぐり農園と作業所里楽が連携し、精力的にイベント等に出店して販売を行った。また、高知市や須崎市の医療機関や施設、量販店等での販売や町内直販所へも出品した。

売り上げは、どんぐり農園では、花、野菜、苗木、クリスマスツリー、町からの清掃作業受託による収入で、作業所里楽では、クッキー、パウンドケーキ、喫茶、自動販売機等の売り上げと町の清掃作業受託での収入となった。

（4）研修

一陽病院の協力を得て、訪問介護事業所、地域活動支援センターと合同で高次脳機能障害についての職員研修会を開催した。

3月には作業所里楽が岡山県へ視察研修を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、次年度へ延期した。また、作業所里楽、どんぐり農園の両作業所では、それぞれ日帰り社会見学を実施した。3月予定の社会見学は、感染症予防対策のため中止とした。

<利用実績>

月	利用者数 (実人員)	利用者数(延人員)	内 訳	
			どんぐり農園	作業所里楽
4月	21	340	124	216
5月	21	353	134	219
6月	22	366	136	230
7月	23	414	152	262
8月	23	338	123	215
9月	23	343	131	212
10月	22	354	136	218
11月	22	389	136	253
12月	22	345	133	212
1月	22	331	121	210
2月	22	315	116	199
3月	22	385	142	243
合 計	265	4,273	1,584	2,689
※前年度	255	4,191	1,568	2,623

<販売活動の実績>

4月・・・町内教職員研修会
5月・・・春の特産市、障がい（児）者連総会、老人クラブ連合会総会
6月・・・一陽まつり、シルバー手作り展（高知市）
7月・・・教育委員会下記研修会、高幡地区民生児童委員協議会研修会
8月・・・町内教職員研修会
9月・・・天誅組シンポジウム
10月・・・シルバー手作り展（高知市）、老人大学
11月・・・道徳フォーラム、産業祭・健康ふくし展、人権コンサート
12月・・・キッズバリアフリーフェスティバル（高知市）
障がい（児）者連クリスマス会
2月・・・シルバー手作り展（高知市）、ふくしでまちづくり研修会
通年・・・ふくし交流プラザ、須崎市量販店、高知市内病院、地域サロン
あったかふれあいセンター

9. 共同募金事業、日赤事業

(1) 共同募金、歳末たすけあい募金の募集と助成

共同募金推進計画に基づいて募金活動をそれぞれ行った。

戸別募金では各地区長の全面的な協力で募金活動を実施し、歳末たすけあい運動では、産業祭・健康ふくし展時に災害支援コーナーで義援金募集を行った。

<募金活動、助成事業状況>

➤ 赤い羽根共同募金

募金実績額： 1,211,539 円

本会で受けた助成額： 745,000 円

助成事業：ふれあい配食サービス、福祉パトロール
社協だより「あくしゅ」発行

➤ 歳末たすけあい募金

募金実績額： 159,076 円

本会で受けた助成額： 126,472 円

助成事業：年末おせち料理配食

(2) 健康ふくし展への参画

歳末たすけあい活動として、「おもち販売」やもち米のご寄付で「もち米販売」を行い、民生児童委員、本会役員の協力により実施した。

➤ 健康ふくし展時 歳末たすけあい募金額 94,400 円



（３）歳末たすけあい助成事業「おせち料理の配食」

歳末たすけあい義援金を活用して、年末に一人暮らし高齢者、高齢世帯等へボランティアによる手作りおせち料理を配食した。

西地区、東地区それぞれに寿司などメニューの打ち合わせや材料の購入準備などボランティアの多くの協力で実現できた。



<実施状況>

- 実施日 令和元年 12 月 26 日
- 配食数 347 食（296 世帯）
（東地区 184 食、西地区 163 食）
- 調理・配達ボランティア 延 146 人
（東地区 62 人、西地区 84 人）



（４）日赤（日本赤十字社）事業と活動資金募集

赤十字事業の啓発に努め、その活動資金の募集を５月の「赤十字会員増強月間」に行った。各地区長の協力で次のとおりの実績があった。

<資金募集活動実績、現在積立金額>

- 目標額 760,000 円
- 実績額 906,900 円
- 災害積立金 85,747 円

奉仕団員は、高幡地区合同研修会に参加し、災害時必要となる知識や技術を学び、団員同士の交流を深めた。

10. 福祉団体の活動支援

各団体の事業計画に基づき、役員を中心とした事業運営が円滑に行われるよう支援した。事務局として活動した団体は、次のとおり。

(1) 民生児童委員協議会 事務局

本会と協働しながら、福祉パトロール、安心安全見守り台帳作成等に主体的に関わり、調査、調整、学習活動等を行った。

毎月の定例会開催や学校訪問の調整、会計事務、各種研修会への参加調整、研修事業調整、委員の任期満了に伴う交替に要する事務手続きなど事務局業務を行った。

(2) 老人クラブ連合会 事務局

地域老人クラブの衰退が進む中、町内外の会員や小中学生など幅広い世代との親睦、交流を目的として事業に取り組んだ。

事業の計画、実施に関しては役員を中心に取り組み、事務局としては単位クラブとの連絡調整、町や高幡・県の老人クラブ連合会との調整を行った。

また、3B体操の講習や体力測定、グラウンドゴルフ、ウォーキングなどの健康づくり活動、各種研修会や親睦研修旅行などの教養活動等、明るい長寿社会づくりを目指し、様々な事業を実施した。

(3) 障がい（児）者連合会 事務局

町内会員の交流を目的に、役員が中心となり事業企画を行った。行事には、ボランティア団体（シルバー介護士会、自立支援ボランティアわきあいあい）の協力を得て、多くの会員、家族が親睦を深めることができた。事務局として、各事業の調整、周知とりまとめ、会計事務などを行った。

(4) 母子寡婦団体「ひまわりの会」事務局

活動費を得るために“めんつゆ”等の販売の支援を行い、会員同士の親睦旅行やボランティア活動を実施した。事務局として、会員が安全に活動に参加できるよう配慮した。

(5) シルバー介護士会「ひだまり」事務局

一人暮らし高齢者等の在宅訪問活動が定期的（月1回）に実施できるよう、訪問世帯の調整や訪問時の送迎支援を行った。また、一人暮らし高齢者等を招き、一日宅老所「ひだまり」を2回実施したが、その際の参加者送迎支援や連絡調整を行った。